

## 教育相談の変容（新型コロナウイルス感染症の前後を比較）

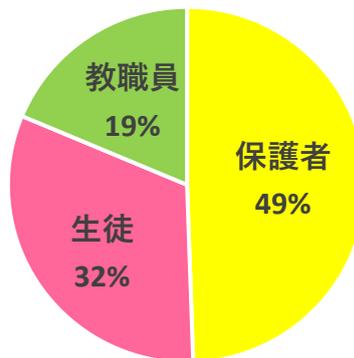
2018年度の相談数（本校スクールカウンセラーへの相談数）の半数が保護者であり、生徒は三分の一程度である。

当時の生徒からは、「面談（カウンセリング）を受けることに躊躇してしまう」「カウンセリングを受けるのは特別なこと」などという声をよく聞いた。

自身の困りごとは自分一人の力で解決しないといけない、と思っている生徒も多く見受けられた。

	2018年の相談件数（のべ）
保護者	45
生徒	29
教職員	17

2018年の相談件数（のべ）



2023年度の相談数（本校スクールカウンセラーへの相談数）の7割近くが生徒本人からである。

まだまだ社会の閉塞感やフラストレーションを感じざるを得ない状況で、生徒のストレスも一気に表面化したように感じる。

コロナ禍の中、世の中の相談方法も変化を見せ、「対面」「電話」「オンライン」「SNSやメール」など、幅広くなった。本校でも「電話」「オンライン（現在は中止）」などを取り入れた。

	2023年の相談件数（のべ）
生徒	85
教職員	30
保護者	14

2023年の相談件数（のべ）

